



RESTART
Challenge More.

ゆうばり 市議会だより

57号
2022.11

拠点複合施設
「りすた」



音楽フェスティバル

7月29日(金)から
8月7日(日)まで
開催されました。



【第3回定例市議会の一般質問】

君島孝夫議員・小林尚文議員	P 2
本田靖人議員・千葉 勝議員	P 3
熊谷桂子議員・高間澄子議員	P 4
今川和哉議員・議会報告会	P 5
行政視察・編集後記	P 6



職員給料の早期改善について



君島孝夫

君島 市長の任期も今月を含め、残すところ7か月である。今年度の市政執行方針でも重要な課題として述べられている様に、現在7%削減している職員給料について国・道と協議を継続し、早期改善を目指すという意向が伺う。

市長 平成30年4月に、9%から7%削減へ改善したところであり、それ以降においても「さらなる改善が必要」として、国・道と課題を共有してきた。令和4年第一回定例市議会の市政執行方針において現在7%削減している給料の早期改善を目指すところであり、7%から5%に改善すべく、現在、国・道と協議を行っているところである。

君島 職員給料改善を目指すためには、財政再生計画の兼ね合いから、スケジュール感を持って取り組むべきと思うが、市長はどの様なスケジュールで改善を目指すのか伺う。

市長 職員給料改善に向けた協議を現在行っており、令和5年4月改善を目指している。

君島 職員給料改善を目指すため、改善を可能にする財源確保策をどの様に考えているのか伺う。

市長 財政再生計画の抜本見直し、つまり平成29年度以降の人員費分の決算剰余金などを活用することで、国・道と協議している。

君島 職員給料改善に必要な金額はいくら位を見込んでいるのか伺う。

総務課長 7%から5%に、2%改善で年間一千二百万円必要と試算している。

君島 国・道の協議に対し職員給料の必要性をどの様に伝え、理解してもらおうとしているのか。

市長 平成19年、財政再建団体となった際、財政再建に資するため職員給与を大幅に見直し、それ以降国・道との交渉のもと、今日に至っている。職員においては、この16年間、給料のみならず職員数も削減された中で、行政サービスを継続するため日夜努力してきたことに頭が下がる思いである。職員のこれまでの努力に報いるため一日でも早い給料改善が絶対に必要である。

君島 三者協議にとらわれず、国・道に対して更なる協議を重ねて全国市町村と遜色の無い職員の給料に戻し、より良い職場環境を作って頂きたい。

厚谷市政におけるこれまでの市政執行と将来に向けた夕張のまちづくりについて



小林尚文

小林 公約に掲げた目標、各種施策等の達成状況と市長自身の評価について伺う。

市長 模擬坑道火災、新型コロナウイルス拡大、マルハニチロ(株)工場閉鎖、夕張りゾート(株)の廃業などの対応に迫られ、事業着手が後回しの状況が続いた。坑道の復旧事業の着手、スキー場の再開、マルハニチロ工場後継事業者による再開等、丁寧な対応により実を結んだ。一方、給与改善、地域互助、商工業者や農業者へのフォロー、防災強化等十分な取り組みに至っていない。

自己評価については、市民、議会の皆様が評価すべきと考えている。

小林 任期中に達成出来ない課題、公約の取り扱いについて伺う。

市長 国や道と協議、予算化しなければならぬもの、修正で対応出来るもの、任期中全精力で取り組む。中長期的に対応せざるを得ない内容もある。基礎的部分は仕上げたい。財政再生中にあっても必要な内容は引き続き実現に向け取り組む。

小林 再生振替特例償還期間中及び償還後に考えられる課題について見通しを伺う。

市長 償還中、償還後も課題がある。

。予算の四分の一が特例債の償還で5年続く、課題の優先順位を見極めて取り組む。総合計画策定の早期着手が重要。償還後の課題については、道に負担をいただいている職員派遣及び市庁舎の移転改築、生活インフラの補修などを一般財源で対応することになるため、二度と再生団体に陥らない運営が必要。そのため職員のスキルアップを実現し課題を乗り越える。

小林 市政の継続は厚谷市長が担っていくべきと考えるが、決意を伺う。

市長 残す任期も半年、市外の方々からも憧れとなる夕張のまちづくりを目指し、全力で取り組んできた。

しかし、夕張市は全国一の高齢化社会で様々な分野への影響の拡大が懸念される。財政再生計画を着実に進め、マスタープランを基軸に各種施策の検討を進めてきた。夕張市という地域にこだわり取り組んできた私自身が先頭に立ってゆかなければならない。それが地域を熟知した私の使命と強く感じている。進むべき道については多くの方々の意見を伺い真摯に思いを凝らして参りたい。

「りすた」の運営について

責任の所在が不明確だ

市長 速やかに明確にしたい

本田 小学校児童の放課後における「りすた」利用に関する検討状況について伺う。

教育長 小学校校長や市関係部局等と継続して意見交換を行い、ゆうばり小の児童が、平日放課後「りすた」に立ち寄り、一定の時間、何らかの活動を行うなど自由に過ごすことが可能となるよう、その実現に向け、対応策の協議、取り組みを推進していくと確認した。今後は、「りすた」を利用する際のルール作りや検討事項を整理し、教育委員会担当職員とゆうばり小の担当教職員が検討会議を開催し協議を行い、さらに必要に応じて、市関係部局等との確認を行いながら「りすた」の放課後活用を実現したい。

本田 遅くとも令和5年度当初には、小学生の放課後直接利用を認めるべきだと考えるがいかがか。

教育長 教育課としては、できれば年内、あるいは令和5年3月末までには実施したいと考えている。

本田 常設の「りすた」運営委員会の設置に関する検討状況について伺う。

市長 関係課で課題や可能性について議論を加速しながら、市民と共々考える議論の場づくりについて、スピード感をもって取り組んでいく。



本田靖人

本田 スピード感をもって取り組むとしているが、前回質問してからの9か月間は、どのような指示を出し検討をしてきたのか伺う。

市長 この間、グランドピアノ移送に関する件を優先して取り組んできた。具体的に私が旗を振っていつからと指示を出した状況はなかった。今後は早急に対応していきたい。

本田 「りすた」運営の責任の所在が不明確だと言わざるを得ない。市長が方針を示し、権限と責任を明確にすべきではないか。

市長 ご指摘のとおりだ。市民と共に考える議論の場づくりと同様に速やかに明確にしていく。

本田 担当課の課長の充て職ではなく、権限を持った館長職の設置が必要だと考えるがいかがか。

市長 然るべき職責を持った職員が情熱を持ち、進めることのできる環境が必要だと考えている。

本田 市庁舎の移転先を早急に確定させることで未利用土地や市有地の有効活用が推進できるのではないか。

市長 その通りだと受け止めている。外部検討委員会を立ち上げ、協議検討を本格的に開始した。概ね令和5年6月を目途に基本構想の取りまとめをし、その中で市庁舎の移転先についても整理していきたいと考えている。

部活終了後の下校便について 交通事業者と運行について 検討する

千葉 勝



千葉 勝

千葉 中学校の部活動後の下校便については、富野行きは南部経由、滝ノ上行きは真谷地と楓経由で運行されているが、このことが富野、滝ノ上の生徒の帰宅時間が遅くなり生徒の負担が大きくなっていると考えるが、教育長の見解を伺う。

教育長 夕張市内にある数少ない交通資源をフル活用し、小中学校の児童生徒、保護者の特段のご理解により、ここまで大きな混乱もなく、通学及び部活動における児童生徒の足を確保できているものと認識している。しかしながら、議員ご指摘のとおり、一部、帰宅時間が遅くなる、生徒がいることは事実として認識している。

千葉 直近の「夕張市通学安全プログラム」による合同点検での危険箇所とその対策について伺う。

教育長 中高生が夜間バス待ちで「りすた」を利用する時、付近が暗いので危ないとの意見があり令和4年度に予算措置された。また、道路幅が狭く、歩道もない急カーブの所にカーブミラーを設置した。

千葉 毎年、中学校から、この下校便について①部活終了時間に合わせたスクールバスの時間を設定してほしい②南部線と富野を別便にしてほしい③スクールバスの発着を中学校前にしてほしい等の予算要望書が提出されていると聞いている。そこで、これらの要望についてこれまで検討されてきたのかについて伺う。

教育長 部活終了後の下校便にこれまで、要望があり検討をしている経過はある。結論として、部活の下校便の時間帯、夕方には運転手が帰宅し、その要望に対応するシフトが組

千葉 夕張市において、運転手の担い手不足や利用者の減少などで公共交通を取り巻く環境は厳しさを増している。スクールバス単体での運行は財政的な面からも難しいと言ふことはどの自治体も課題として挙げている。しかしながら、将来を担っていく子どもたちの教育への投資は極めて重要で、すし通学での安全で安心の確保も決して外してはいけなくと考える。将来にわたる持続可能な公共交通体系の再構築に向けて検討するにあたり、子どもたちの声も聞いて安全で安心の運行方法の検討を市長にお願いする。

フレイル(虚弱)の予防と

対策について

ヒアリングフレイル(加齢性難聴)について

熊谷 介護予防の観点から、家族や本人が「フレイル」について理解し、予防が必要だが、市の現状の取り組みと、問題点、今後の対策は？

市長 市民向け講座、自主組織への助言指導、住民運営の集いの場への専門職の派遣等、介護予防活動を委託事業により実施。問題点は、参加者の減少・固定化。昨年度の事業から、フレイルリスク該当者を把握し、その対応も今後の課題。運動・口腔機能向上を図るプログラムや講演などで、健康意識の向上や健康の維持・増進を図る。

熊谷 他の地域も、講演や体操などでは、参加者が固定化・減少している。先進地域を参考に「フレイルチェックリスト」や「フレイル料理教室」、「フレイルサポーター」の養成など、高齢者医療保険・国保・介護予防・保健衛生の担当者が連携してプロジェクトチームで検討していくこと等が一体的に検討される予定と思うが、ぜひ、温水プールの活用を。温水プールでの歩行や運動は、浮力・水圧・温度・抵抗がポイントで、ひざや股関節が悪くても、水の中なら楽に動け、可動域も広がる。また、心臓の負担が減り、より多くの運動ができ、転ばない体づくり、日常生活

に必要な筋肉づくり、脳を刺激し、基礎代謝も高めるため、リハビリ目的にも使え、物忘れや脳卒中を予防するなど、たくさんのメリットがある。財政再生団体からの卒業を見据えて、ぜひ検討を。

市長 温水プールは、有効な手段の一つと認識しているが、財源や今後の人口を考慮すると、現実的な選択肢とは考えにくい。

熊谷 未来に向けて、市民の健康づくりに大きく役立ち、若い人たちにも魅力ある街づくりの一環として今後ぜひ検討を。

熊谷 認知症への影響が大きい、加齢性難聴の早期発見アプリの導入と、また、高額な補聴器の購入補助をする自治体が、昨年段階で道内9自治体となっている。補聴器の利用促進で認知症を予防し、健康寿命を延ばし、介護保険利用料の削減にもつながる。本市でもぜひ実施を。

市長 アプリと他市町村における施策について情報収集に努める。

熊谷 幸福の黄色いハンカチ基金など財源はある。健康寿命を延ばし、認知症予防で介護保険利用料の削減、災害時にも、フレイル予防にも大きな役割を果たす補聴器の購入補助を今後ぜひ、実現させていただきたい。

に必要



熊谷桂子

特別支援教育の充実

教員の働き方改革を進める

ためのサポートについて

高間 教育行政執行方針の中で関係機関との連携を図り、充実した支援を行うとあるが、これまでどのような連携を図り、支援を行ってきたのか。

教育長 個々に応じた適切な指導と必要な教育的支援を行う特別支援教育連携協議会、こども園や保育園の訪問、児童相談所による巡回相談を通して支援の必要な子の早期発見、早期治療を図る療育推進協議会等の連携を図り、充実した支援を行っている。

高間 特別支援の専門的知識がある高等養護学校との連携は行っているか。

教育長 パートナーティーチャーとして連携をとっている。

高間 通級指導は、読み書きが苦手、コミュニケーションがうまく取れない等、個別の障がいの状況に応じてきめ細かい学習支援を行うことで自立を促す。又、言語障がいが多いも多く、注意欠陥多動性障がいや自閉症等学校生活に困難を伴うために一人一人に応じた指導が必要である。支援学級の教員に求められるものも多いが、小・中学校での体制状況を伺う。

教育長 支援学級では、小学校8名、中学校4名の教員を配置している。

高間 通級指導の利用者が増加する中、障がい者教育に携わる人材不足

の課題があり子どもに応じた教育が行われていないという声も聞くが。

教育長 特別支援学級教諭が必ずしも免許を保有している訳ではなく義務化されていない。学校では、免許取得を推奨しつつ研修を通し対応している。

高間 特別な支援を要する児童生徒の割合が年々増加傾向にあり、対策として支援員を配置して指導を行っているが配置状況を伺う。

教育長 小学校で3名、中学校1名の特別支援教育支援員が配置されており、充足していると認識している。

高間 教員の働き方改革を進めるためのサポートに道教委は「学習指導員」「教員業務支援員」の配置事業を実施しているが本市の配置状況を伺う。

教育長 小学校で学習指導員1名、教員業務支援員1名。中学校でも、学習指導員1名、教員業務支援員1名が配置されている。

高間 教員をサポートする人材としてプリントの準備や採点、電話対応、消毒作業、授業準備補助等のサポートを行うが、さらに分業を進め授業の質の向上や教材研究に注力し、教師でなければできないことに全力投球できる環境の整備をして頂く事を要求する。

の課題



高間澄子

『地域経済を支える 市内企業の振興策』



今川和哉

進出工場の情報把握や市の関わり方について

今川 夕張市沼ノ沢にて、チヨコレイトを中心とした菓子の製造販売を行う「株式会社DADACA」が工場物件を取得し、工場稼働に向けた準備を進めている。市が把握している情報と、工場が地域経済に与える影響の見通し、そして考えられる市の支援策や必要と思われる市の対応をどう考えているか伺う。

市長 市は株式会社DADACAがマルハニチロ夕張工場跡の後継企業候補となった段階から意見交換を重ね、経営方針や事業計画、操業開始に向けた準備状況を把握してきた。現在、同社は操業開始に向けた生産設備等の整備を進めているほか、正社員15名、パート20名の求人募集を開始、道内自社工場からの移転を含め30名程度の人員で操業を開始する計画。また、新商品開発や、一部の作業工程について市内事業者を活用すること、地域活動への参加、直売所の設置検討など、地域に根差した企業活動を目指し準備を進めている。事業による経済効果として、同社の生産による直接的な効果のほか、雇用増、市内事業者との取引による効果、多方面との好影響がおよぶと考えている。

市では条例に基づく固定資産税減免、国や道の支援制度の活用、商品開発や人材確保に向けた市内事業者との連携調整など、円滑な操業開始に向けた支援を行っている。今後も長期安定した事業運営を継続し、幅広く市内に好影響が及ぶよう、商工会議所等の機関とも協力してサポートを継続する。

マウントレーニススキー場について

今川 マウントレーニススキー場は市が行う観光政策、学校のスキー授業等の教育政策のほか、政策目標「関わり人口の創出」にも影響を与える重要なものであるが、運営会社の経営方針の確認と今冬のスキー場の営業見込みについて伺う。

市長 夕張リゾート運営会社である「夕張リゾートオペレーション株式会社」と各施設の再開に向け、情報収集や施設再開に向けたサポートを行ってきたが、代表取締役交代後も継続して意思疎通を図り、再開や円滑運営のためのサポートを行っている。経営方針について大きな変更点はないと伺っているが、各施設のコンセプトを明確にして進めていくと聞いている。スキー場については、次のシーズンに向け、リフト整備等の必要な作業を進めており、今冬も営業を行うと把握している。

3会場で議会報告会

夕張市議会基本条例第6条第3項で「議会は、市民の声を広く政策立案につなげるため、市民及び各種団体等との意見交換会等を年1回以上開催するものとする」となっています。改選後初の開催となる議会報告会で、令和元年から現在に至るまでの4年間の議会活動を報告し、議会に対する期待やご意見を広く市民のみなさまからお聞きするため、10月3日～5日まで市内3回会場で開催し延べ57名のご参加を頂きました。

参加者からは財政再生団体脱却後のまちづくりや水道料金について、インターネット環境、新しい市立診療所の診療科目(透析)、防犯灯への補助、小中一貫校、議会報告会の広報の仕方、意見書の採択の仕方、鹿鳴館の所有者、公共交通等に関するアンケート、炭鉄港の取り組みなどの意見が寄せられました。今後も、市民の皆さんの声を聞き、市の政策に繋がるよう、努力を続けていきます。ご参加ありがとうございました。



紅葉山会館



りすた



文化スポーツセンター

視 察 報 告

◆10月13日

室蘭市の「北海道PCB処理事業所 - JESCO」を視察しました。

現在、PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の処理は、国の事業によって全国5か所で行っており、道内では、唯一室蘭市の本処理施設で処理が行われています。

視察では、建設の際の沿革から、実際の処理工程、安全対策について説明を受け、施設内を見学いたしました。こういった施設においては、徹底した情報公開と、厳重な安全体制の確立が地元理解につながっていると感じます。

なお、夕張市内では、把握されている高濃度PCB廃棄物の処理は終わっていますが、日本国内にてPCB廃棄物処理を完了させなければならない時期も迫っていることから、今一度、調査確認を徹底すべきでしょう。

◆10月14日

登別市議会の辻弘之(ひろし)議長より、登別市議会で行っている議会改革についてご講義いただきました。

登別市議会は、早稲田大学の研究所調査で、昨年度の議会改革度が全国2位と評価され、本年「ローカルマニフェスト大賞」の議会改革賞優秀賞を受賞した議会です。登別市議会は議事堂のバリアフリー化も進んでいるほか、幅広い世代から意見を聴くための機会を積極的に作るなどして、「議会と住民の垣根が低い」と評価されています。また、育児や介護を理由にオンラインで委員会に出席することを認めたり、議案や関連の資料をすべてホームページに公開したりするなど、先進的な取り組みが行われている議会です。

この登別市議会における情報公開については、単なる情報の提供ではなく、住民との「情報共有」であると考えているとお話しされておりました。

議会側が知ってほしい情報を「広報」するだけの情報公開ではなく、住民が議会と同じ情報、資料を知られる公開を行うことで、住民が知りたいときに見られることを目指し、載せられる情報は全てウェブサイト公開するという方針であると聞きました。

そのほか、議会サポーター制度やペーパーレス化、オンラインICT議会、事務局職員提案制度などの説明もいただき、夕張市議会も議員間で再度検討して、取り組みを参考にしたいと考えています。

夕張市議会だより編集委員会

委員長	君島孝夫
副委員長	熊谷桂子
委員	小林尚文
委員	本田靖人
委員	千葉勝
委員	高間澄子
委員	今川和哉

来：灯油の価格が気になりますね…。

さて、雪虫の季節になりました。

また、議会の様子を動画でYouTube配信する準備を進めていたところですが、今般視察に伺った登別市議会では、「情報共有」の立場から、「議会資料」をすべてホームページに掲載している」とお聞きし、帰りの車内では「ぜひ、うちでもやりたいね!」と、盛り上がりました。

10月、コロナ禍で実施を見送ってきた議会報告会を市内三か所で開催、延べ57名の方が参加され、若い方たちからも貴重なご意見をいただきました。

編集後記